

# ふれあいリビング

笑顔が生まれ、心に花が咲く。  
「ふれあいリビング」でコミュニケーションが深まる。



高齢化社会から高齢社会へと一歩進んだ感じのある日本。この縮図は府営住宅にも現れており、高齢者の閉じこもり対策や安否確認などが問題となってきました。地域コミュニティの中で孤立することなく、誰とでも話ができ、人とふれあえる——、そんな場所



として生まれたのが府営住宅内で展開されている「ふれあいリビング」です。いつでも、誰でも、気軽に立ち寄れるようにと、下新庄さくら園を皮切りに始まっ

たこの試みは、今では12カ所の府営住宅で実施され、確実にふれあいの花を咲かせています。高齢者対策は勿論のこと、地域コミュニケーションが深まり、団地の交流が盛んになったことから、住民からは「作ってよかった」との声が挙がっています。今回は07年に既存集会所の一部を改造し、「ふれあいリビング」を新設した2住宅を紹介します。

## 堺 高松住宅

### ふれあいリビング「幸の風」

集会所が自宅のリビングへ変身。訪れた人が驚く活況ぶり。



2年間、役員で検討し、高齢者や一人暮らしが増えていることから実施に踏み切ったのが堺高松住宅。運営委員長の剣八重子さんは「これができるのおかげで、色々な人と話せるようになりました。団地内が華やきました」と語ります。現に高齢者と子供が会話をするように、核家族が抱える世代間の会話不足も解消される形に。「1」で知り合っ

たおじいさん、おばあさんと他の家族の子供が話すシーンも生まれました。また、これまであまり会話のなかった人も、時々ここへ来てスタッフに微笑みかけるように。これが本当のふれあいの場なんです」とその成果を披露してくれました。足りない物は日曜大工に長けた人達で製作。やる限りは少しでも喜んでもらうと、吉野まで名水を求めて汲みに行く徹底ぶり。「高齢者への声かけをと思っていた矢先の企画で実によかったです。苦勞もなく、楽しんでいきます」との声がその成功を物語っています。

## 高槻 芝生住宅

### ふれあいリビング「うの花」

老人部の昼食会から「ふれあいリビング」に進化。おかげで住民同士の交流が盛んに。



「以前から老人部で昼食会をやっており、それを発展させ、ふれあいリビングにしました」と言うのは運営委員長の寺西光子さん。大規模団地である高槻芝生住宅では、これまでも高齢者問題に取り組んでおり、年に3回の昼食会を実施してきました。



今では「もっと早くから開けてほしい」との声も。「息子さんが車イスを押してお母さんを連れてくる光景が見られます。車イスの方でも使えるようにと、あえて土足にしたんです」と話すようにバリアフリーになった設計にも成功要因が隠れているようです。

「厨房を広げたいと頼んでいた時に府から逆提案があり、ふれあいリビングを設けることに。昼食会だとしても決まった人ばかりだったのが、これを作ったおかげで、今まで出てこなかった人まで顔を出すようになりました」と寺西さんは話します。ふれあいリビングでは先輩格の高槻五領団地を参考に4月からオープン。素人ばかりでどうなるかと思ったそうですが、その心配も杞憂に終わり、

